

PRESS RELEASE

2025 年 6 月 6 日
株式会社 ispace

ispace、ミッション 2 に関するご報告

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”（以下ミッション 2）の RESILIENCE ランダー（月着陸船）による、民間企業として日本初、アジア初の月面着陸を本日予定しておりましたが、6 月 6 日（金）午前 8 時時点（日本時間）において、ランダーとの通信の回復が見込まれず、月面着陸を確認するミッション 2 マイルストーン Success 9 の完了が困難と判断すると共に、ミッション 2 の終了を判断したことをお知らせいたします。

ispace のエンジニアは東京の日本橋にある HAKUTO-R ミッション・コントロール・センター（管制室）から 2025 年 6 月 6 日（金）午前 3 時 13 分（日本時間）、着陸シーケンスの実行を指示するコマンドを送信しました。RESILIENCE ランダーは降下開始のために月周回軌道を離脱、高度約 100km から約 20km まで惰性降下を行なった後、予定通り主エンジンを噴射し、減速を開始しました。ランダーの姿勢がほぼ垂直になったことを確認したものの、その後、テレメトリが消失し、同日午前 4 時 17 分に予定していた着陸予定時刻を過ぎても、着陸を示すデータの受信には至りませんでした。

現時点で確認できていることとして、月面との距離を測距するレーザーレンジファインダーにおいて、有効な計測値の取得が遅れ、また予定されていた月面着陸に必要な速度まで十分に減速ができていなかったことが確認されています。これらの状況から、当社のランダーは最終的に月面へハードランディングした可能性が高いと現時点で推測しております。

ランダーからの通信が途絶えたあと、ランダーのリブート（再起動）を試みましたが、通信の再確立に至りませんでした。これを受け、ミッション 2 マイルストーンの Success 9「月面着陸」は達成が困難であり、ミッションの終了を判断いたしました。

なお、これらの状況が発生した要因については、現時点ではこれまでに取得されたテレメトリの詳細な解析を実施している状況であり、解析が完了次第ご報告いたします。

引き続き管制室においてランダーの現状把握に向け対応を行っております。新たに状況が確認でき次第、詳細を追ってお知らせいたします。

■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史のコメント

「現時点では月面着陸完了の見込みがないことから、まずはこれまで取得できているテレメトリの解析を迅速に実施し、原因究明に努めることが責務であると考えています。その上で、従業員とそこそご家族の皆さま、ビジョンに共感し、信じ続けてくれる株主・ペイロードカスタ

マー・HAKUTO-R パートナー・政府関係者の皆さま、そして ispace を応援してくださるすべての皆さまに遅滞なくご報告し、信頼の回復に努めてまいります。」

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 は 2025 年 1 月 15 日に打ち上げを完了し 2025 年 6 月 6 日に月面着陸に再挑戦を試みたものの、成功に至らず原因を究明中。ミッション 3（正式名称：Team Draper Commercial Mission 1）およびミッション 4（旧ミッション 6）は 2027 年に打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされている。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

■ HAKUTO-R (<https://ispace-inc.com/jpn/m1>)について

HAKUTO-R は、ispace が行うミッション 1 およびミッション 2 を総称する、民間月面探査プログラム。独自のランダー（月着陸船）とローバー（月面探査車）を開発して、月面着陸と月面探査の 2 回のミッションを行う。SpaceX の Falcon 9 を使用し、2022 年にミッション 1（月面着陸ミッション）のランダーの打ち上げを完了。2025 年 1 月 15 日にミッション 2（月面探査ミッション）の打ち上げを完了し、2025 年 6 月 6 日に、月面着陸へ再挑戦したが、成功に至らず原因を究明中。

オフィシャルパートナーである株式会社三井住友銀行により命名された Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”には、新たな始まりやチャンスの意が込められている。

HAKUTO-R はオフィシャルパートナーとして株式会社三井住友銀行、コーポレートパートナーとして、日本航空株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、日本特殊陶業株式会社、シチズン時計株式会社、スズキ株式会社、高砂熱学工業株式会社、SMBC 日興証券株式会社、S k y 株式会社、Epiroc AB、株式会社ジンズ、栗田工業株式会社が参加している。